

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出 ■10月2日(木)提出 ■3月13日(金)提出

学校番号 27 高岡 高等学校 課程 全

| | | |
|-------------------------|--|--|
| 高知県の基本理念 | (1)学が意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人 | 地域と協働して地域の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する。 |
| スクール・ミッション | | 仁淀川流域の自然資源・文化等を生かして、自ら考え行動する力や社会に参画する意識を育むことで、地域社会に貢献する人材を育成する。 |
| アドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針) | | 【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) |
| スクールのポリシー | 【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○今の自分を認め、成長させたいという意欲をもっている生徒を求めます。 ○高校生活で「付きたい力」を言うことができる生徒を求めます。 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○自分を大切に、他の人も大切に考えられる生徒を育成します。 ○目標をもち、自ら考え行動できる生徒を育成します。 ○協働して行動できる生徒を育成します。 ○地元へ愛着をもつことができる生徒を育成します。 | ○将来を見据えた学力、体力をつけ、感性を磨く取組を行います。 ○地域貢献活動や地域と連携した取組をとって、他者との関わりを積極的に行います。 ○地元の人とともに課題解決を考え、行動する取組を行います。 |

| | |
|------------------|---|
| 学校関係者評価 | 【学力の向上】評価 【 B 】 学校評価(最高評価は4)は、「教育課程・学習指導」が3.6、「進路指導」が3.4。令和5年度からの3年間の進路決定率は100%、国立・公立大学合格者は3名と成果を挙げている。全校生徒を対象とした基礎学力の定着を図るディベートトレーニングから学びの土台を作り、日々の授業内容の理解につなげている。進学希望者には、学部・学科に応じた個別の添削・面接指導を行い、進路保障を確保したとしている。自由記述には、「お通路マップづくり協力されており、勉学以外の学びができていると感じました。」と学びの成果を評価する意見もいただきました。一方で、「本人の進路をどうするか、保護者を含めて導いてほしいです。」とあり、保護者への情報提供を再検討する必要があります。 |
| 【社会性の育成】評価 【 A 】 | 学校評価(最高評価は4)は、「生徒指導」が3.4、ボランティア活動に参加した生徒は、のべ164人(2月20日現在)。教員からの呼びかけを前向きに捉えて、大綱まつりの綱づくり、土佐市産業祭の運営協力、龍馬マランの給水ボランティア参加等、地域とのつながりを第一とした地域貢献活動に参加する生徒の姿が見られた。自由記述には、「学校外で会ったときに挨拶を交し合えることが増え、私たち社会人も元気づけられます。」と好意的な評価をいただいた。 |
| 【チーム学校】評価 【 A 】 | 学校評価(最高評価は4)は、「安全管理」が3.3、「保護者・地域との連携」が3.4。自由記述には、「先生方の生徒への対応や関わりが親身で心づかいを感じています。」とある一方で、質問項目の回答では「安全管理が十分でない」との回答もありました。「生徒会・部活動は活発に行われていると思うか」の質問には3.4の評価を得た。生徒会執行部が中心となり地元の小学校に赴いて行うふれあい出前非行防止教室や、初心者として始めても県体の上位入賞や四国・全国大会に出場できる部活動の成果が評価された。 |

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

| 重点項目 | 育成を目指す資質・能力【P】 | 現状と目標(評価指標) | 具体的な取組内容【D】 | 中間評価【C】 | 中間評価後の取組内容【P・D】 | | 年度末評価【C】 | 見直しのポイント【A】 |
|--------|--|--|--|---|--|--|---|---|
| | | | | | 中間評価後の取組内容【P・D】 | 年度末評価【C】 | | |
| 学力的向上 | ★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来へのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) | ○1年: (8.3%) → (20.8%) ○2年: (13.8%) → (34.5%) ○授業外学習時間の増加 【問2】授業以外で、平日の1日2時間以上勉強しているの肯定的回答の増加 ・R6: (10.2%) → (25%)以上 ○将来のための勉強をしている生徒の増加 【問14】将来の可能性を広げるために勉強をがんばっているの肯定的回答80%以上(R6: 76.9%) | ○基礎学力の定着 ・ディベートトレーニング・ウィークリーテストの工夫改善及び実施(すらの活用) ○授業改善の実施 ○日常的な課題の提出 ○キャリア教育の充実 ・マナー検定など | C ○第1回学力検査C層以上1年: 8.3%(R6:13.3%), 2年: 13.8%(R6:19.0%) ○【問2】13.1%(目標 -11.9) ○ウエークリーテスト合格率(9.17まで) 1年: 70.7%, 2年: 74.1%, 3年: 80.7% ○ディベートトレーニング(学び直し)課題提出状況(9.17まで) 1年: 92.1%, 2年: 94.3%, 3年: 89.9% ○【問14】85.7%(目標 +5.7) ○マナー検定後、自主的に講師へアドバイスを求める生徒が多数いた。 | ○第2回学力検査で目標を達成するため、各教科で授業外学習の取組を進める。 ○ウエークリーテストの合格率向上のため、家庭学習の習慣化を必ず必ずするとの意識付けができる工夫した取組(予定) ○キャリア教育では、1.2年生は取り組んだ課題のまとめを行い、次年度の活動へと繋げる。また、3年生は社会の仕組みを改めて知り、3年間の総まとめの発表を準備する。 ○マナー検定に関して、教員間で確認し決定した取り組みを確実に実施。 | A ○第2回学力検査C層以上が大きく増加 ・1年:(入学時8.3%→20.8%) ・2年:(入学時13.8%→32.1%) ○A層の生徒 ・1.2年合計:(入学時0%→5.7%) ○授業外学習時間R6年度より増加 ・2時間以上勉強:19.7%(目標-5.3) ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・80.2%(目標+0.2) ○学び直しの取組の習慣化により学力が向上 ○小集団による授業により学力が向上 | ●授業外学習の習慣化に向けた取組の実施 ●授業デザインプロジェクトの取組による授業改善 ○学び直し課題の取組の継続 | |
| | | | | | | | | B ○【問24】84.2%(目標 -5.8) ○発達障害と生徒支援に関する校内研修 2回実施 ○キャリアアートの効果的な活用を教員間で共有し、一人でも多くの生徒が学校生活での成長を振り返ることができるようになる。 ○【問14】85.7%(目標 +5.7) ○マナー検定後、自主的に講師へアドバイスを求める生徒が多数いた。 |
| 社会性の育成 | ★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等を含む) | ○周りを気遣える優しい生徒が多い。 ○素直な生徒が多い。 ○友人関係を悩む生徒が多い。 ○自己肯定感の低い生徒が多い。 ○【問24】「何か困ったことや問題が起きた時に、周りの人に相談することができる」の肯定的回答90%以上(R6: 89.4%) | ○生徒同士が関わる取組を行う。 ○生徒の多様性に対する対応力の向上 ・発達障害に関する研修の実施 ・教員の実践を他の教員が活用できるようにデータ化する。 ○グーシェルスキルトトレーニングの視点を持った取組の実施 ○キャリアノートの効果的な活用 | B ○【問24】84.2%(目標 -5.8) ○発達障害と生徒支援に関する校内研修 2回実施 ○キャリアアートの効果的な活用を教員間で共有し、一人でも多くの生徒が学校生活での成長を振り返ることができるようになる。 ○【問14】85.7%(目標 +5.7) ○マナー検定後、自主的に講師へアドバイスを求める生徒が多数いた。 | ○発達障害と生徒支援に関する3回目の校内研修を年度内に実施する。 ○キャリアアートの効果的な活用を教員間で共有し、一人でも多くの生徒が学校生活での成長を振り返ることができるようになる。 ○【問14】85.7%(目標 +5.7) ○マナー検定後、自主的に講師へアドバイスを求める生徒が多数いた。 | A ○社会性の育成 問24:84.3%(目標 -5.7) ○希望進路決定率:100% ○国立大学合格者:2名 ○研修により教員の知識は向上している。また、D3層も減少した(2年: 65.5%→35.7%) ○マナー検定などSSTの視点での取組により生徒の経験値が向上し、自信につながっていると思われる。 ●生徒指導に係る対応が多、ルールを守ることや、人間関係作りが弱さを感じる。 | ●人間関係作りに係る取組の実施 ●教員研修の実施 ●マナー検定等経験値を上げる取組の継続・実施 ○支援の必要な生徒に関する研修会の継続実施 | |
| | | | | | | | | B ○【問24】84.2%(目標 -5.8) ○発達障害と生徒支援に関する校内研修 2回実施 ○キャリアアートの効果的な活用を教員間で共有し、一人でも多くの生徒が学校生活での成長を振り返ることができるようになる。 ○【問14】85.7%(目標 +5.7) ○マナー検定後、自主的に講師へアドバイスを求める生徒が多数いた。 |
| 地域協働学習 | 【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携 | ●体験的な学びの経験が少ない生徒が多い。 ○【問19】「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができる」の肯定的回答65%以上(R6: 61.9%) ○【問21】「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動を行ったことがある」の肯定的回答70%以上(R6: 66.3%) | ○総合的な探究の時間を活用 1年: 地域を知る活動 2年: 地域課題探究 ○地域貢献活動やボランティア活動への参加 ・生徒に周知し、参加を勧める。(大綱づくり、土佐市産業祭、高知龍馬マランなど) | C ○【問19】55.9%(目標 -9.1) ○総合的な探究の時間は、1年生は全員が地域に赴き現状と課題を知ることができた。2年生は、差別に設定した課題 ○【問21】63.7%(目標 -6.3) ○地域貢献活動やボランティア活動への参加の「66名、情報を一管理し、学校全体でボランティア活動への参加を促す取組ができている。 | ○他校でのボランティア活動の情報を今以上に集め、生徒が参加しやすい雰囲気づくりと参加を促す取組を積極的に行う。 ○生徒会や継続的に参加を希望する生徒を中心に、地域貢献活動を積極的に行う。 ○1年生の「すずかけ講座」で、各々の活動が聞き手にかかりやすくなる発表ができるよう助言・指導を行う。 | B ○【問19】60.3%(目標 -4.7) ○総合的な探究の時間のプログラム、高校の魅力化特色化の視点からの検討 ○【問21】63.7%(目標 -6.3) ○地域貢献活動やボランティア活動への参加の「66名、情報を一管理し、学校全体でボランティア活動への参加を促す取組ができている。 | ●総合的な探究のプログラムの、高校の魅力化特色化の視点からの検討 ○【問21】63.7%(目標 -6.3) ○地域貢献活動やボランティア活動への参加の「66名、情報を一管理し、学校全体でボランティア活動への参加を促す取組ができている。 | |
| | | | | | | | | B ○【問19】55.9%(目標 -9.1) ○総合的な探究の時間は、1年生は全員が地域に赴き現状と課題を知ることができた。2年生は、差別に設定した課題 ○【問21】63.7%(目標 -6.3) ○地域貢献活動やボランティア活動への参加の「66名、情報を一管理し、学校全体でボランティア活動への参加を促す取組ができている。 |
| 取組項目 | 【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成 | ○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を意図的に設定した回数 各教科学期に1回 ○総合的な探究の時間」の取組のうち、各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けている件数: 3件 | ○主体的・対話的で深い学びの授業改善 ・公開授業期間の設定 ・授業改善の話し合いの場の設定 ○総合的な探究の時間」の活用 | B ○授業デザインプロジェクトで、教員を4グループに分けて公開授業を実施 ○学校支援チーム教科訪問での研究授業 3回実施(国1,数1,英1) ○国語科は、理科と社会科の教材をもとに生徒が設定した課題について調べ考えたことを小論文にまとめた。 | ○公開授業での実践内容と課題をまとめ、今年度または次年度では教科を横断した統一目標で公開授業を実施する。 ○次年度では定期的に行う授業改善を話し合いの場を、年度内の学期に1回実施する。 ○他教科の授業をより多く参観し、教科での固定的な指導方法を見直すきっかけにする。 | B ○公開授業での実践内容と課題をまとめ、今年度または次年度では教科を横断した統一目標で公開授業を実施する。 ○次年度では定期的に行う授業改善を話し合いの場を、年度内の学期に1回実施する。 ○他教科の授業をより多く参観し、教科での固定的な指導方法を見直すきっかけにする。 | ●校内統一で授業モデルを実施 ●【再掲】授業デザインプロジェクトの取組による授業改善 | |
| | | | | | | | | B ○授業デザインプロジェクトで、教員を4グループに分けて公開授業を実施 ○学校支援チーム教科訪問での研究授業 3回実施(国1,数1,英1) ○国語科は、理科と社会科の教材をもとに生徒が設定した課題について調べ考えたことを小論文にまとめた。 |

| チーム学校 | 取組のねらい【P】 | 現状と目標(評価指標) | 具体的な取組内容【D】 | 中間評価【C】 | 中間評価後の取組内容【P・D】 | | 年度末評価【C】 | 見直しのポイント【A】 |
|-------|--|---|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | 中間評価後の取組内容【P・D】 | 年度末評価【C】 | | |
| 学校の振興 | ★地域の魅力化・特色化 ・地域と連携した活動を通して、学校の取組を広く知ってもらう ・地元中学校からの入学者の増加 | ○魅力化・特色化の具体的な目標(指標) ・コンソーシアム会議の実施回数3回 ○学校運営協議会等の実施回数2回 ○生徒の活躍が広く認められる活動 ○外部講師の指導を含めた生徒の育成・強化 ・軽音楽部の活動場面の拡大 ○地域との連携・協力を推進した活動 ・朝のあいさつ運動、ふれあい出前非行防止教室、ボランティア活動等の実施 | ○コンソーシアム会議等の計画的な開催 ・コンソーシアム会議におけるアバノハの具体化 ○高校魅力化コーディネーターの活用 ○生徒の活躍が広く認められる活動 ○外部講師の指導を含めた生徒の育成・強化 ・軽音楽部の活動場面の拡大 ○地域との連携・協力を推進した活動 ・朝のあいさつ運動、ふれあい出前非行防止教室、ボランティア活動等の実施 | B ○コンソーシアム会議とワーキンググループ ・それぞれ1回実施。会議開催に向けて委員との調整に時間がかかり、実施に遅れが生じている。 ○学校運営協議会は、7月に開催。 ○部活動では、弓道部は男子個人県体3位、四国大会出場。軽音楽部は、各種大会で上位入賞まであと一歩のレベルに達している。その実力を、5月の宇佐大綱まつりで披露した。 ○朝のあいさつ運動: 4回、ふれあい出前非行防止教室は中学生対象1回、生徒総会とリーダー研修は、計画通り実施 | ○他校の生徒の意見や考えを知ることができる活動を紹介し、生徒が視野と発見を広める手助けができる。 ○少人数ながらも継続した部活動を行うことができるよう支援する。 ○小学生を対象としたふれあい出前非行防止教室を、地域の協力と援助を得て実施する。 ○学校運営協議会を2月に開催し、学校振興を後押しする前向きな意見があった。 | B 学校の魅力化・特色化 ○コンソーシアム会議: 2回 ・アクションプランの策定 ○学校運営協議会: 2回 ○部活動入部率: 7.8%(R6: 70.4%) ○軽音楽部: 審査員特別受賞 ・レズリング: 令和8年度の全国大会への出場決定(個人) ○生徒会を中心とした活動の実施 ○多くの生徒は高校生活を主体的に楽しんでいる。 ●地元中学生からの期待度の向上 | ●コンソーシアム会議を活用した魅力化特色化の推進 ●地域の中学生や保護者へのPR | |
| | | | | | | | | B ○コンソーシアム会議とワーキンググループ ・それぞれ1回実施。会議開催に向けて委員との調整に時間がかかり、実施に遅れが生じている。 ○学校運営協議会は、7月に開催。 ○部活動では、弓道部は男子個人県体3位、四国大会出場。軽音楽部は、各種大会で上位入賞まであと一歩のレベルに達している。その実力を、5月の宇佐大綱まつりで披露した。 ○朝のあいさつ運動: 4回、ふれあい出前非行防止教室は中学生対象1回、生徒総会とリーダー研修は、計画通り実施 |
| 不祥事防止 | ★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よき職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応 | ○倫理観堅持のための具体的な目標(指標) ・不注意事象発生件数の件 ・ハラスメントについての理解度100% ○職員宣誓等の誓約書の理解整備 ○校内研修の実施回数5回(R6: 5回) ○不祥事防止委員会の実施3回(R6: 5回) | ○「信頼される学校づくりのために改訂版」を活用した研修会の実施 ○デマク周辺を整理整頓する期間を学期に1回設定する。 ○教職員が話し合う研修を実施する | B ○不祥事防止の校内研修や委員会の実施計画を周知し、教材の整理と廃棄を計画的に行なった。 ○③不祥事防止に関して、校内研修1回(全定員2回)、不祥事防止委員会5回、研修後のチェックシート提出100%。 | ○不祥事防止の校内研修や委員会の実施計画を周知し、教材の整理と廃棄を計画的に行なった。 ○③不祥事防止に関して、校内研修1回(全定員2回)、不祥事防止委員会5回、研修後のチェックシート提出100%。 | B ●不注意事象が発生した ・ハラスメントの理解度: 100% ○校内研修の実施回数10回 ○不祥事防止委員会の実施回数2回 ○教職員は緊張感をもって業務に取り組んでいる | ●不祥事防止研修会の見直し ●教職員が話し合う場の設定 ●不祥事防止委員会の見直し | |
| | | | | | | | | B ○不祥事防止の校内研修や委員会の実施計画を周知し、教材の整理と廃棄を計画的に行なった。 ○③不祥事防止に関して、校内研修1回(全定員2回)、不祥事防止委員会5回、研修後のチェックシート提出100%。 |
| 働き方改革 | ★長時間勤務の解消 ・時間外勤務の削減及び効果的な教育活動の実施 | ・1月45時間以内、年間360時間以内を厳守する。(R6: 45時間を超える勤務回数は、9回/7名、360時間超過は13名) | ・業務の精選や見直しに向けた会議を実施 ・1月45時間を超えないように管理職から勤務について改善するよう働きかける。 ・全部活動を複数顧問制(2~4名)とする。 ・会計年度任用職員の活用 | B ○1月45時間以上の時間外勤務を行った教員、のべ5名(8月) ○事務系の会計年度任用職員が、業務の一部を担うことで、教職員の時間外勤務軽減に繋がっている。 ○常勤教員の夏期休暇取得率、81.1%(8月) ○学年別に業務の分担や会議の時間設定を考え、負担感の軽減と生徒に向き合う時間を作り出している。 | ○繁忙期に1月45時間以上の時間外勤務者が出ないよう、役割分担を明確にした計画的な業務を行う。 ○業務に支障なく休暇を取ることができるとの管理職と教職員の信頼関係を継続する。 | B ●1月45時間以上の時間外勤務を行った教員、のべ5名(1月末)昨年年度より1名増 ○会計年度任用職員(事務補助)が、業務の一部を担うことで、教職員の時間外勤務軽減に繋がっている。 ○夏季休業中に学校閉庁日を設定 | ●教職員が抱えている課題を、学校全体の課題として対応するための仕組みづくりの検討 ○会計年度任用職員の活用 | |
| | | | | | | | | B ○1月45時間以上の時間外勤務を行った教員、のべ5名(8月) ○事務系の会計年度任用職員が、業務の一部を担うことで、教職員の時間外勤務軽減に繋がっている。 ○常勤教員の夏期休暇取得率、81.1%(8月) ○学年別に業務の分担や会議の時間設定を考え、負担感の軽減と生徒に向き合う時間を作り出している。 |